

絵本  
の本  
楽しいわ!

今年購入した本の中から〜

一緒に読みたい本たち

大人と

みんな大満足

子どもと

九条子ども文庫 吉村あゆ子



『あんなにあんなに』  
ヨシタケ シンスケ 著  
ポプラ社  
ヨシタケシンスケさんの本が  
あると、「今度はどんな話  
かな〜?」とワクワクする。  
MOE 絵本屋さん大賞 2021 1位



『ゆびたこ』  
作・絵  
くせ さなえ  
ポプラ社  
ゆびしゃぶりしている女の子の  
表情が イmpact大!!

“あんなにほしがったのにもうこんな”と、ちらか  
放題のおもちや。この本は、子どもより、大人(お母  
さん・おばあちゃん)と読んで、一緒に泣き笑いたい。  
ヨシタケさんの本は、他にも『ふまんがあります』『りゅうがあら  
ます』など、子どもの代弁者のおぼ本もあれば、  
『あつかよらぬげばいい』は単純明快なのに、  
哲学的味、『あるから書店』は倉造、想像の宝庫。  
もう、ヨシタケワールドは沼…。

ゆびしゃぶりがやめられた!とWEBの「好コミズ  
話題に」という本の帯についつい目がいく。  
赤ちんの指しゃぶりはかわいい♡でも、大きくなる  
につれ、「いつまで指しゃぶるとんのせ。」ってなる。  
この本のように、ゆびたこが「もっといはいすて、  
大きくしてや〜。」とおちん口調で話しはじめ  
たら、ゴワ〜ん! はてさて、女の子とゆびたこの  
運命はいかに…。



『たべものやさん』  
しりとりたいかい  
かいさいします』  
作・汐夕 サヤカ  
白泉社  
あからほじまる  
食べ物 しりとり



はじめの  
「よのなかルールブック」  
『あんしん  
えほん』  
監修:高濱正伸  
絵:林 ユミ  
日本図書センター

しりとりが楽しい! 食べ物もた〜くさん!  
人物も食べ物たちも、みんな自由なのに、個性  
があって、かわいい。おみずみまで絵に見入ってほ  
しりとりなので“ん、がっ”食べ物、帰ります。  
パン屋さんやラーメン屋さんは失格者続出で、  
なんとも切ない…。でも最後にちゃんとオチが  
ある。大事なあるあるですね。読んでいると、おも  
いしくて、お腹が空きます。

『よのなかルールブック』シリーズの一冊。  
『もっとよのなかルールブック』『おやくそくえほん』もある。  
今、子どもたちに教えたいたい大切な事が、この本と読むと  
うよく伝えられる気がする。“あなたには世界にたっ  
一人しかいない、とても大切な人だから。”と。  
押しつけがましくないのが、あんまりと受け入れられる。  
最後のページには、「ころがくるしくなったら がんばるの  
を やすむ」とある。どんなときよりもあなたのころが  
元気なら、それでいいんだよ、と。子どもの笑顔が一番。



## おいしいもの育てよう！

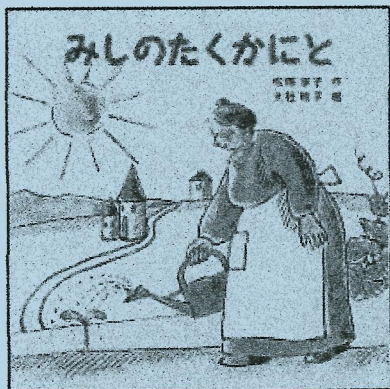
鈴木晴代

京庫連のみなさま、またしても、あの子どもの本屋【きんだあらんど】の鈴木です。  
ピンチな時の救い神です。

でも今日は本の話ということで、厭いません。

田舎（尊敬の念をこめて）に住んでうれしかったことは、家のまわりどこでもスコップ一本で掘り起こせば、土、土、土。秋には色づいた木の葉が降り積もって、やがて土に返っていくのを身近にみられること。土に触れたい私でしたが、そんな生やさしいものでもありませんでした。時には全力で闘う必要もあります。植物は動けないと、侮るなかれ。

絵本づくりと庭づくりでよく知られたターシャ・テューダーの夫も厳しい労働に耐えかねて家を出て行ったことは知られています。



松岡享子/作 大社玲子/絵  
こぐま社 1998

『みしのたくかにと』は太っちょおばさんが台所を掃除中に見つけた黒い小さな種からお話が始まります。なんの種か分からないけれど、まあ庭に蒔いてみましょう。庭の隅の土を掘り起こしていると、通りかかった近所の男の人が「朝顔の種ですよ」という。別に通りかかった近所の女の人は、「これはすいかの種ですよ！」という。

太っちょおばさんは土を良く耕し、丁寧に種をまいて育てます。やがて、その小さな種は大きく実って…ある男の子に、そしてその周りにまで、大きな喜びをもたらします。たかがカボチャ、されどカボチャです。

松岡さんへの追悼の想いで読みたい。

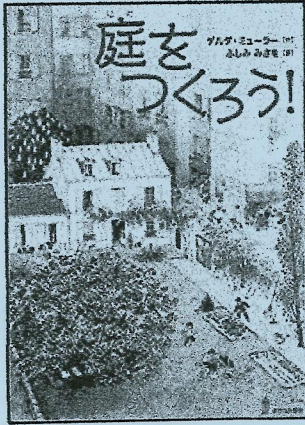


マラキー・ドイル/文  
ジュディス・アリポーン/絵  
山口文生/訳 評論社 2002

絵本の世界ではたくさんの子どもたちや老人たちが実のなる植物、花の咲く植物を育てます。実った野菜たちは子どもたちの身体の成長を促すし、実らせたという満足感や達成感子どもたちの心を育み、誇りや自信を生みます。

沢山の子どもたちがチャレンジしていますが、おじいさんやおばあさん、大人の手助けも大切です。『ジョディのいんげんまめ』のジョディは、おじいちゃんに教わりながらおいしい豆を作ります。





ゲルダ・ミュラー/作  
ふしみみさを/訳  
あすなる書房 2015

『庭をつくろう!』には大きな庭付きの家に引っ越してきたバンジャマン一家が、荒れ放題だった庭を再生させていく努力が語られます。子どもたちも自分の庭を貰って自分らしく。

『ピーレットのやさいづくり』のピーレットは犬のピフと一緒に野菜畑を作ろうとします。幼いピーレットもまずは小枝や石をどかして土を耕すところから。絵がぴったり。



ウルリカ・ヴァイドマーク/文 イングリッド・ニイマン/絵 高橋麻里子/訳  
岩波書店 2016



サラ・ガーランド/作  
まきふみえ/訳  
福音館書店 2010.3

『エディのやさいばたけ』のエディは自分からママに言い出します。ボク自分の庭をつくってもいい? もちろんママは大賛成。っでも、ここでもやっぱり雑草引きから...

ハティの畑はスケールが違います。幼いとき両親を亡くしたハティは親類をたらい回しされるように13歳まで生きてきました。学校はよして、勤めに出るよう叔母に言われた頃、たった一人母さんの弟だという叔父さんから人を介して手紙が届きました。農場を継ぐべくひとり列車に乗って...

ヒトもたっぷりの愛情で育ちます。植物たちも愛情を求めているようです。



カービー・ラーソン/作  
杉田七重/訳  
鈴木出版 2011.7



## 「親子で平和について考えよう」

「今、世界で何が起きているのか？過去の出来事から学ぶことは？  
未来のために私たちにできることは？」そんなことを親子で考える機会になればと願いながら4冊の絵本を紹介します。



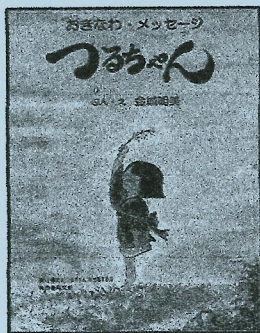
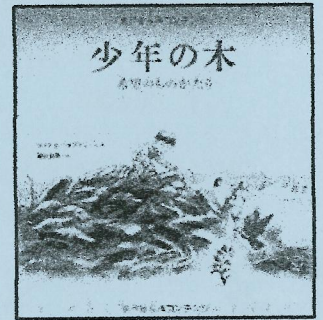
### 『わらのうし』

(内田莉莎子／文 ワレンチン・ゴルディチューク／絵  
福音館書店 1998年)

昔話の宝庫といわれるほどウクライナにはたくさんの昔話があります。その中で最も愛されている『わらのうし』は絵も素晴らしく大型絵本なので読み語りに適しています。今もロシアによる侵攻が続いているウクライナに、1日も早く平和が戻ってくることを願って、この絵本を親子で読んでみてください。

### 『少年の木』 (マイケル・フォアマン／作・絵 柳田邦男／訳 岩崎書店 2009年)

戦争があった国で傷ついた人たちの気持ちを文章と絵で想像しながら読むことは、平和について考えることにもつながります。この絵本では、戦争の中で勇気と希望を持って行動した主人公の気持ちを大切に読んでほしいと思います。



### 『おきなわ・メッセージ つるちゃん』

(金城明美／文・絵 絵本『つるちゃん』を出版する会  
高文研 1997年)

第2次世界大戦下、住民を巻き込んだ日米決戦場となった沖縄。主人公の「つるちゃん」は、作者金城さんのお母さんです。戦争を生きぬいたお母さんの体験を「形」にして残したいとこの絵本が作られました。今年は沖縄が日本に返還されて50年がたつ節目の年です。ぜひこの機会に読んでください。

### 『へわってすてきだね』 (安里有生／作 長谷川義史／絵 ブロンズ新社 2014年)

2013年6月23日の戦没者追悼式で1年生の安里君が読んだ詩です。「平和ってうれしいね。みんなの心から平和がうまれるんだね。これからはずっと平和が続くようにぼくができることからがんばるよ。」平和の大切さを考え行動できる人になれるよう親子で読んでみてください。 [個人会員 翁長まゆみ]





【写真絵本】



『あ』 (大槻あかね・作 福音館書店 2008)

小さな針金人間が、色々なものに出会います。それは、「ジョッキ」や「マヨネーズ」など身近なもの。でも、針金人間にとっては、大変な驚きです。言葉は「あ」や「は」とかシンプルだけど、針金人間の出会いへの喜びが伝わってきます。

『まほうのコップ』

(藤田千枝/構成 川島敏生/写真 長谷川摂子/文 福音館書店 2012)

ガラスのコップに水を注ぐと・・・?

日常生活の中で、見たことがあるまほうです。読んだあと、かならずやってみたくなるまほうです。



『こいぬがうまれるよ』

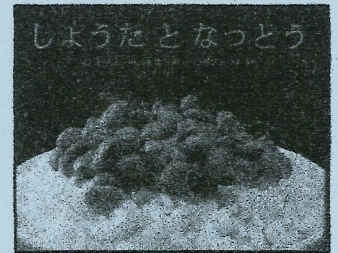
(ジョアンナ・コール/文 ジェローム・ウェクスラー/写真 つばい いくみ/訳 福音館書店 1982)

一つの命が生まれる。ふくろに包まれて生まれてきたこいぬ。耳はふさがっているし、目も見えない。そんなこいぬが、おっぱいを飲み、だんだん大きくなっていく様子を追っています。そのこいぬの命を預かる日を待ちわびる子供のわくわくした気持ちも描かれています。

『しょうたとなっとう』

(星川 ひろ子・星川 治雄/写真・文 小泉 武夫/監修 ポプラ社 2003)

おじいちゃんは、納豆嫌いの孫のしょうたと大豆を育てます。大豆が枝豆になり、納豆になっていく1年が丁寧に描かれています。しょうたは納豆を食べられるようになるのでしょうか？ 納豆を前にしたしょうたの真剣な表情がとてもいい。

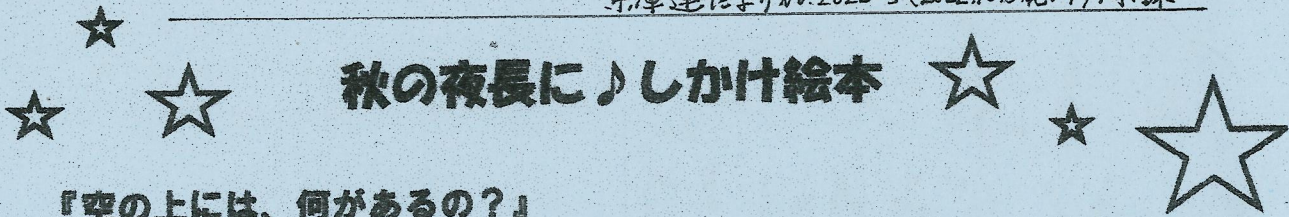


『だって春だもん』 (小寺卓矢/写真・文 アリス館 2009)

かならず春はやってきます。川に、森に、谷間に……。草も木の芽もどんな生き物たちも、それを知っています。春が待ち遠しい時期に読む美しい写真絵本です。

(伊藤康子)





### 『空の上には、何があるの?』

(シャーロット・ギラン 文 ソマー・ユヴァル 絵 河出書房新社 2019)



空の向こうには、いったい何があるの?なんと、2.5メートルの長〜い絵本。鳥や飛行機より高く、雲を超えて、星のまたたく宇宙まで一さぁ、いっしょに旅をしよう!

### 『かわいい てんとうむし』

(ミラニー・ガース作 ローラハリスカ・ベイス絵 大日本絵画 2001)  
10匹のかわいいてんとうむし。ちょうちよがやってきて、1匹消えた。はっぱを食べていると、1匹消えた。遊んでいると、小鳥がやってきて、1匹消えた。みんなどこにいったのかな?



### 『いろいろなおやさい どこになる?』(きのした けい作 阿部 真由美絵 コクヨ 2019)



野菜の裏り方がテーマの仕掛け絵本。  
しかけ扉をめくると、みずみずしく美しい野菜が登場します。

### 『さんびきねこのかいぞくごっこ』(上野与志 作 磯みゆき 絵 ひさかたチャイルド 2006)

「かいぞくごっこでしようぶだ!」「しようぶだ!」「さんせーい!」  
いつもケンカ。でもいつもいっしょ。さんびきねこのゆかいな冒険ファンタジー。



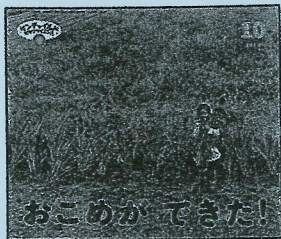
(そのえびとよし文庫 辰己景子)



〈お米の本〉

新米の季節です。農の吉日八十八夜に植え付け、秋収穫。今がとりわけおいしいお米にまつわる本たちです。

『おこめができた!』



中川孝俊 監修 岩間 史朗 写真  
ひさかたチャイルド 2013

種まきから、田耕し、田植え、除草、お米が出来る迄が、写真で説明され、季節を通して田のまわりの自然の変化もよくわかります。手元に届く白いお米がおいしいわけ!です。

『もしも日本人がみんな米つぶだったら』



山口タオ作 津川シンスケ 絵  
講談社 2004

お茶碗一杯にどのくらいの数の米粒があるのか?とらえがたい大きな数は、米粒換算術を使えば、だいたいどれくらいかわかる。想像してゆくと・・・楽しい。

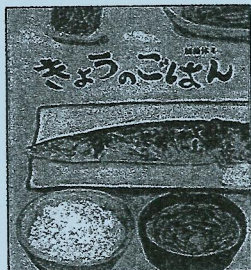
『すがたをかえる食べもの② 米がへんしん!』



香西みどり監修  
学研プラス 2016

おにぎり、きりたんぽ、せんべい、アラレ、和菓子、みりん酢、茶…と米がいろいろな食べ物にかわってゆく様子を紹介。米は偉大!

『きょうのごはん』



加藤休ミ 作  
偕成社 2012

夕食時にネコが家々の晩ごはんをのぞいてまわります。各々のお夕食のごはんが何ともおいしそうに描かれています。山科駅前ビル地下マーケット鮮魚コーナー上に、「特大サバ、休ミさんの絵」があります。見るたびに、この本がうかびます。



「杉山亮さんの本、あれこれ」

11月20日に開かれた“杉山亮のものがたりライブ”では杉山亮さんの生のお話をたっぷりと楽しみました。お話を聞いた後で、杉山さんの本を読んで見たい、読んだことあるけどもっと読んでみたいと思うのは自然の成り行きでしょう。事前読書会の報告でも何冊か紹介しましたが、京都市図書館の蔵書には、100冊近くあります。どれを読んでもおもしろいですよ、と言ってしまえばおもしろいですが、シリーズになっている本も多いので、1冊気に入ると、次々とその世界を広げていくことができます。一番の人気シリーズは、『ミルキー杉山のあなたも名探偵シリーズ』でしょうか。



1992 杉山亮作 中川大輔絵 偕成社

1992年に始まったこのシリーズは今年2022年に24冊目が出ました。親世代が楽しんだものを、子どもたちも楽しみ、そして次作を待っています。それぞれの本には『もしかしたら名探偵』、『いつのまにか名探偵』『こんどこそは名探偵』などなど、6文字で統一された口調のよい題名がついています。題名を見ただけで何巻目の本なのかかわかると、相当な愛読者ですね。

杉山さんは東京生まれで、落語や講談が普通に生活の中にあっただ中で育ったそうです。

『お江戸決まり文句』(1998 カワイ出版) といった本も出されています。

かけことばやだじゃれなど言葉遊び満載の

『青空晴之助』(5巻 2021 復刊)、

『昔屋話吉おばけ話(3巻) (1997~1999)

『用寛さん本伝 (5巻)』(1995~1999 フレーベル館)

など、こども講談と名打ったこれらのシリーズは「花は紅、柳は緑」などという文句を普段の会話に気軽に使い、会話を弾ませる、そんな言葉の文化をこどもたちにつなぎたいという思いから書かれているように思います。

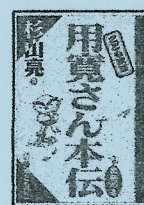


杉山亮作  
川端誠絵  
2021(復刊)  
仮説社



杉山亮作 高部晴市絵  
1997 フレーベル館

杉山亮作  
藤本ともひこ絵  
1995  
フレーベル館

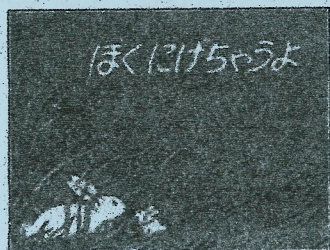


20代に五感を使った保育に携わるなかで出会ったこどもの表情を集めてつづった『子どもにもらった愉快的な時間』(2012年復刊 晶文社)、長男が3歳からの8年間、杉山さんが毎年彼にインタビューした記録『子どものことを子どもにきく』(2020年復刊 ちくま文庫) など、おとな向けに書かれたものもとても楽しく読めます。これまで、見逃していたことも多いなあと自分自身を省みると、ちょっとせつなくなりますが。

「ぼくが子どもたちに学んだ幸福になるための方法は、いつも、今、一番おもしろいと思うことをやっていること。それがおもしろいうちは続けること。もっとおもしろいものを見つけたら、すぐそっちに行くこと。おもしろくなくなったらやめること。そういうことのくりかえしで時をおくっていくこと。それはほんとうにぼくの生き方の指針になってしまいました。」(『子どもにもらった愉快的な時間』から抜粋)とあります。数多くの著書の中でも貫かれている「子どもに学ぶ、という杉山さんの姿勢に、読者は誠実なおとなを見ることでしょう。



ウサギの絵本 一兎年にちなんで



『ぼくにげちゃうよ』 マーガレット・W・ブラウン／文

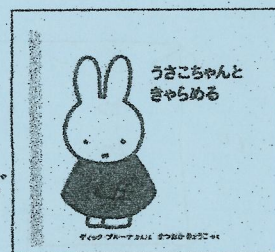
クレメント・ハード／絵 岩田みみ／訳 ほるぷ出版 1976年初版発行  
好奇心旺盛な子うさぎが、お母さんうさぎに言いました。「ぼくにげちゃうよ。」するとお母さんうさぎが答えます。「おまえがにげたら、かあさんはおいかけますよ。だって、おまえはとってもかわいいわたしのぼうやだもの。」親子の言葉の掛け合いは、どんな時も見守ってくれる優しい母の存在の大きさを思わせます。原書は1942年にアメリカで出版された絵本の古典です。作中の一場面が同作者の『おやすみなさいおつき

さま』にも登場していて、作者の遊び心を感じます。絵本のサイズが小さめだからでしょうか、多人数の子どもたちへの読み語りにと、大型版が出版されています。

『うさこちゃんときゃらめる』 ディック・ブルーナ／文・絵

松岡享子／訳 福音館書店 2009年初版発行

うさこちゃんが万引きをしてしまうという、ショッキングなテーマを扱った絵本ですが、ストレートだからこそ共感できます。うさこちゃんはどうな時でも真つぐ前をみて、子どもたちを見つめているのです。1955年に発表され、1964年日本に紹介された『ちいさなうさこちゃん』から、60年近く愛されているロングセラーシリーズのなかの1冊です。シンプルであるからこそ、読む者が自由に感じ、考えることができます。同シリーズには、差別や障害について考える機会を与えてくれる『うさこちゃんとたれみみくん』、個性の素晴らしさを教えてくれる『うさこちゃんと一なちゃん』、命の大切さを教えてくれる『うさこちゃんの だいすきなおばあちゃん』など、「ブルーナ絵本」は思春期の子どもにも読んで欲しい絵本です。



『うさぎのみみはなぜながい』 北川民次／文・絵 福音館書店

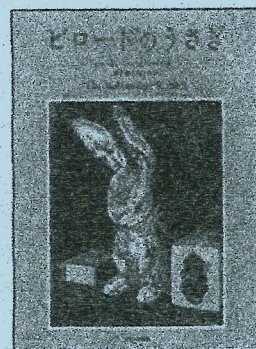
1962年初版発行

からだの小さいために、森の動物たちにいじめられていたうさぎは、神様に「もっと大きくしてほしい」と頼みます。すると神様は「トラとワニとサルの皮を持ってきたらかなえてやる」と言いました。うさぎは、知恵を使いトラとワニとサルの皮を持っていくのですが、「こんなに頭のいいうさぎを大きくすれば他の動物をいじめるだろう」と、神様はうさぎの耳だけを長くしたというメキシコの昔話です。メキシコで長く活躍した洋画家北川民次は、日本の風土とメキシコの美術・文化を融合させた象徴的な画風を確立し、多くの力強い美術作品を残しました。

『ビロードのうさぎ』 マージョリィ・W. ビアンコ／原作

酒井駒子／絵・抄訳 ブロンズ新社 2007年初版発行

1922年にイギリスで刊行された“The Velveteen Rabbit”が原作。ぼうやのもとにやってきたビロードでできたうさぎのぬいぐるみが、ぼうやとの別れとともに「ほんとうのうさぎ」になるまでを描いたお話です。原書と同じウィリアム・ニコルソンの絵を配した石井桃子訳『ビロードうさぎ』が童話館出版から出ており、原書はインターネットアーカイブ (<https://archive.org/details/velveteenrabbit00bian/page/n55/mode/2up?view=theater>) で見る事が出来ます。大切だったぬいぐるみの友だちに思いをはせる、ちょっと切ない物語です。



(竹村佳子)



## 「お昼寝の前に」

現在宇治市内の公立保育園に勤務されている俣野良子さん（どんどん文庫）に、保育園で人気の本についてお伺いしました。

ここではお昼寝の前に先生が1冊読み聞かせをするお約束だそうです。給食の後、パジャマに着がえ、お昼寝の用意ができたなら、お待ちかねの読み聞かせの時間です。先生はこどもたちに人気のある本を選んでくれるので、楽しい本であることはもうわかっています。同じお話を何度聞いても飽きることなく、覚えてしまった文句は一緒に唱えます。おともだちとけんかしていても、休戦して一緒にお話を聞くとこころなんて、やっぱり保育園ならではの光景でしょう。こどもたちに混じって聞いてみたくになりました。

『ノントン』は1976年に『ノントンぶらんこのせて』が登場して以来、シリーズが30冊以上ある大ヒット作品ですが、やはりこの園でも大人気です。“おまけのおまけのきしゃぼっぽ〜”など、口調のいいフレーズは読み手にも刷り込まれて、忘れられませんね。人気があるからシリーズ化し、次があるとまた読みたくなるという図式どおり、シリーズ化した絵本たちは園でもかかせないようです。俣野さんが挙げた本もどれもシリーズ化された本です。



『パンどろぼう』 柴田ケイコ 作 KADOKAWA 2020

パンの本といえば『からすのパンやさん』ですが、ニューフェイス登場です。パンのだいすきなねずみくんは、どろぼうからパン職人になります。

『パンどろぼう vs にせぱんどろぼう』『パンどろぼうとなぞのフランスパン』  
2021『パンどろぼうおにぎりぼうやのたびだち』2022



『どろろんびょういん おおいそがし』 荻田澄子作 かとうまふみ絵 金の星社 2014  
『どろろんびょういん たいへんたいへん』2015『どろろんびょういん ドッキリドキドキ』2016

ふしぎに思いますが、“病院”を題材にした本は人気です。お化けがぞろぞろ出てくるので、より楽しい病院ものです。お話を楽しむだけでなく壁にはってあるポスターなど、バックの絵にも関心が集まるそうです。



『だるまんが』 かがくいひろし作 ブロンズ新社 2008

『だるまさんの』2008 『だるまさんと』2009

丸いだるまさんの絵だけで赤ちゃんの心をつかみます。お話を聞いた人は皆、まじめなおかしさに、ふっと笑ってしまうでしょう。



『にじいろのさかな』 マーカス・フィスター作・絵 谷川俊太郎訳 講談社 1995  
『にじいろのさかな しましまをたすける!』1997 『にじいろのさかなとおおくじら』1999  
『にじいろのさかなとおはなしさん』2022

現在全部で20数冊ありますが、まだまだ続きそうです。キラキラは年齢に関係なく、人気ですね。

太田一子



## 【本の紹介】

ふうせん文庫 海老ヶ瀬正三 (高槻在住)

『バスが来ましたよ』 由美村嬉々；文 松本春野；絵

アリス館 2022年

若い時に病気になって目が見えなくなり、白杖を頼りに職場に向かう為にバス停で待っていると「おはようございます」「バスが来ましたよ」の可愛い声が。小学3年生の女の子でした。それから、毎日ほのぼのとした交流が続きやがて、それを見ていたまわりの子どもたちが交流を受け継いでいくという心が温かくなるお話です。先日、4年生に朝のお話し会で紹介しました。



『大ピンチずかん』 鈴木のりたけ：さく

小学館 2022年

表紙を見ただけで中身が想像できる遊び心満載の絵本です。

日常のあるあるを大ピンチと称して100種類が次々と紹介されていますが、どれもクスッと笑えてしまいます。例えば、セロテープの端が見つからないピンチ。爪を切ったばかりでなかなか見つけられなかったり、よくあることです。鉛筆削のかす入れが入ってなくてこぼれたり。以前、文庫でもあった光景です。ポケットから砂がたくさん出てきたり、サナギからかえったカブトムシが夜中に脱走してしまうピンチは保育園でもありました。



『小さなまちの奇跡の図書館』 猪谷千香：作

ちくまプリマー新書 2023年

鹿児島県指宿市の図書館に通う利用者が地元の女性たちと協力してNPOを立ち上げ、問題点がある指定管理者制度に指定管理者として応募申請して、企業や他府県の団体運営でなく、市民が主役として運営していく図書館を実現させるまで、そしてそれ以後の取り組みを紹介しています。さらに

図書館から離れた地域住民や子ども達にも本を届けたいとの思いから移動図書館「ブックカフェ号」を実現(2018年)。同年の横浜での図書館総合展に招かれ陸路で参加し、熊本地震で被害をうけた益城町や台風で被害をうけた高槻市の山間部の榎田地区にもやってきました。その時の様子も本に紹介されています。実は、高槻市内には2017年まで移動図書館「きぼう号」がこの地区にも巡回していました。復活を願いつつも以後走っていません。ブックカフェ号に出会った小学6年生Yちゃんは、小学校の校長先生に許可を得て中庭で文庫を一昨年スタートさせました。高槻で一番新しい仲間の文庫です。

